

キャリアラダー説明会 アンケートからの質問事項

2019年7月18日

北海道医療ソーシャルワーカー協会 研修部

【説明会を聞いての理解度】

Q) ラダーの項目のなかで評価する際の線が無いところが、注釈なのかわからなかった。

→A) 評価表をより見やすくできるよう、工夫が必要と考えます。ハンドブック 2020 作成時には留意していきます。

Q) キャリアラダー評価表とキャリアラダーモデル解釈・行動目標の使い分け？使い方の違いがわからなかった。

→A) 評価表と注釈・行動目標を分けずに、一纏めにする形を検討していきます。

【自由回答（感想）】

Q) 一人職場ではあるが自己評価の良い機会になると感じた！

しかし、外部の方に評価してもらおうとしてもどの程度実践を理解してもらい進めていくのか。

→A) 現段階では、外部評価は、コンサルテーションとしての位置付けとなります。職場内の了解が得られない場合は、個人情報保護など留意の上で説明可能な範囲での情報提供のうえ、助言をいただくことで自己評価の判断材料としてください。

Q) スキルアップの指標となる専門性を意識して取り組めると思う。自己評価実施した場合 ほとんどにC～Eを付ける人が多くなるのではないか。

→A) 本ラダーにより、不十分な点もあるものの評価の構成要素を確認いただくことができます。自己評価に加え、可能であれば職場内において他者との合意評価をお勧めします。この職場内での合意の積み重ねが、本ラダーを刷新するうえで重要なファクターとなります。

Q) 自己評価がポジティブなワーカーとネガティブなワーカーとでは合意評価に大きな差、またはそもそも合意ができないと考えている。おそらく当院ではC評価から抜け出せないと考えられる。どのようにしていけばよいか。

→A) 本ラダーは、評価のポイントを注釈として示していますが、行っているか否かの評価基準とはしていません。このため、同一職場であっても、複数のMSW間での評価認識が異なることは十分想定されます。この評価の異なりを、職場内でスーパービジョンを実施するうえでの課題、研修参加上の問題意識として共有して頂きたいと考えます。

Q) スーパーバイザーの力量がバイジーの評価、指導に差が出るのではないか。

→A) スーパーバイザー、スーパーバイジーともに、本ラダーの指標をもとに、自己・他者評価を表現し、まずは共有・検討していくことをお勧めします。

Q)評価の「できる」と「ふつう」の線引き・違いが難しいのではないか。

→A) 本ラダーは、評価を行う上での項目と要素を示したものです。できる、できないの評価がしやすいように、今後より注釈の具体化にとりこんでいきたいと考えています。お気付きの点は是非ご連絡ください。また、評価水準の認識は、会員の皆さまの活用の積み重ねにより、まずは職場内・地域内・会員全体へと共有の幅を広げていきたいと考えています。

Q)ハンドブックは毎年発行されるといいと思う。(バージョンアップしてもらいたい)

クリニカルラダーを自院で取組んでいく必要性を感じた。デュアルラダーとして取組んでいきたいと思う。協会としてどう考えているか。

→A) 協会の意図するものであり、今後ラダーのバージョンアップを図りながら、毎年ハンドブックを作成していきたいと考えています。

Q)とてもよいキャリアラダーだと思います。ソーシャルワーカーとしてのステップアップが明解です。SW業務が多忙な中、意識の高い機関では活用されるが、活用されない機関も多分にあると思われます。道内のSWに広く使われるようになるにはどうしたらいいのでしょうか。

→A) ラダーを広く普及するため、啓発活動が必要です。機関紙 MSW、支部広報誌にラダー活用状況を掲載するなど、都度会員の目にとまるような「仕掛け作り」を協会でも検討していきます。

Q)次年度以降も活用したいと思いますので、できればラダー自体をインターネットでダウンロードできるようにしてもらいたいのですが。

→A) 協会内で今後の検討課題としていきます。

Q)次年度以降 皆さんの取り組み報告 楽しみにしたい。

→A) 機関紙 MSW や支部広報誌での連載、そして北海道医療ソーシャルワーク学会での研究発表へと繋がるよう、協会をあげて宣伝・普及を行っていきます。

Q)今後スーパービジョン研修などでラダーを用いたスーパービジョンの方法についてまたさらに考えていただけると良いのではないかと思います。(バイザーの力量も重要だと思いました。)

→A) 支部でのフォローアップ体制、外部スーパービジョン体制について検討していきます。スーパーバイザーのスキルアップが重要であり、スーパーバイザーのための研修会など検討していきます。

Q) 早期にデジタルデータで配布してほしいです。

→協会内で今後の検討課題としていきます。

以上